

# 私たちの町の遺跡

## 二本木発掘物語

### ■第5話「文字の書かれた土器」

奈良時代・平安時代の土器には、まれに「文字」を書いたものがあります。使うときに邪魔にならない底の部分などに、1文字から数文字書いてあります。土器を焼いた後に墨で書いたものが多く、焼く前に釘のようなもので書いたものもあります。もちろん、当時は文字を読み書きできる人はごく一部で、役人か僧ぐらいだったといわれています。書かれた「文字」にどんな意味があるのか考えるのですが、これが非常に悩ましい。みなさんも送られてきた手紙やメールが1文字や1単語だけだと、正しく理解するのは難しいですよ。土器に書かれた「文字」はまさにそう。二本木遺跡からは150点ほどが見つっていますが、ほとんどが意味不明です。しかし、意味がわかるようなものも少しだけあります。たとえば、郡役所の高官名である「大領」「主政」という文字は、二本木遺跡の中に郡の役所があったのではと教えてくれます。「政所」というものもあります。KAB社屋の調査では「肥後国」と書かれた硯（すずり）が出土しました。国の施設＝国府用の硯では・・・と期待を込めて考えています。

熊本市文化振興課埋蔵文化財調査室 金田一精氏  
(写真「大領」(郡役所の長官)と書かれた土器)

千二百年ほど前に役所のお偉い方が使われていたかもしれない土器  
ロマンを感じるモン！

